

「国内学会・研究集会」参加報告書

2009年9月11日

専攻・講座名 複合現象科学専攻

学年 博士後期過程 1 回生

氏名 草深 幸

8月24日から、29日までパノラマランド木島平で原子核三者若手夏の学校に参加しました。夏の学校は講義と研究会があります。

研究会では、他大学の学生の発表を聴き、素粒子のいろんな分野の理解を深めることができました。特にくりこみ入門の講演はとてもわかりやすく話して頂きました。朝永のくりこみとWilsonのくりこみの関係がとてもわかりやすかったです。また、私の研究内容「バリオン数生成」と同じ研究テーマの人がいて議論することによって研究の問題点について深く考えることができました。私は、電弱スケールでバリオン数生成を考えているのですが、GUTスケールで考えている人の話を聞いて参考になりました。また、ダークマターをしている人や、インフレーションの研究をしている人もいて、初期宇宙論をしている人が何人かいるのだなととてもうれしかったです。普段少人数でやっているため自分と同じくらいの年の人の研究を聞け、とても励まされました。ダークマターは自分の大学で後輩といっしょに研究をしているのでとても参考になりました。

講義では、弦理論の分野では、橋本幸士氏が「Dブレーン」について講義していただきました。Dブレーンから強結合ゲージ理論の解析への応用で、クォークの閉じ込めが出てきて高次元も少し身近に感じられて、興味が湧きました。お話もとても面白かったです。

場の理論の分野では、河本昇先生が、「超対称性の格子上での定式化とその背景」についての講義をして頂きました。ラティスの話を基礎から丁寧に話してくださりました。筑波大の人にラティスについていろいろ教えてもらいました。自分の研究内容について詳しく説明できる人ばかりで、それに比べて自分は修論を持ってくればよかったと思ってしまうくらいで、自分の研究に対する意欲と理解が低いと反省しました。私の理解がいまいちなので、せっかく聞いてくれている人もよくわからないといわれてしまいました。同級生の人と比べると他大の人ははるかに勉強をしているししっかり理解しているので人に分かるように伝えられるんだなと思いました。

現象論の分野では、尾田欣也先生が「余次元の物理とブラックホール生成」について講義をして頂きました。余剰次元のことはよくわからなかったけれど、やりたいことをやれといってくれたのはとてもうれしかったです。

また、6日間いっしょに過ごすことでたくさんのいろんな大学の人と友達になれました。他大学の研究環境について話を聞くことにより自分の置かれている環境を客観視することができました。

これから、夏の学校の経験を自分の研究に活かして頑張っていこうと思います。